

I 2012年度認証評価における指摘事項（努力課題）

該当なし

II 2016年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2016年度大学評価結果総評】

スポーツ健康学部は、「卒業生アンケート調査報告書（2015年度）」によれば、学部満足度が高い上に、教養教育、専門教育の満足度が全学のトップクラスにある。また、教授陣、ゼミナール、カリキュラム全般に関する満足度も全学のトップクラスにある。海外研修プログラムの参加者も多く、スポーツ、キャリア、英語教育を融合させたプログラムとして高く評価される。さらには、建物・教室や食堂などの施設・整備に対する満足度も全学のトップクラスにあり、極めて充実した教育が行われている。実質的な自己点検活動の成果も認められるが学部運営と混然一体となった感がある。自己点検活動の改善のためには、2015年度大学評価委員会の評価結果への対応状況にあるとおり、質保証委員会の機能を明確にして学部運営や教務の運営と独立した活動として自己点検・評価活動を差別化した体制にする必要がある。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

質保証委員会の機能と運営の明確化を実現するために、まず質保証委員会組織を、各コース（本学部ではヘルスデザイン、スポーツビジネス、スポーツコーチングの3コースがある）のコース長がこの任を担うことにした。質保証委員は、執行部により作成された自己点検評価用紙と実施された活動を審議し、教授会にて指摘することを任とした。執行部はこの意見を適宜取り入れ修正あるいは参考とした。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

スポーツ健康学部は教育への学生の満足度が全学のトップクラスにある中で、『自己点検活動と質保証の制度化を実現させてPDCAサイクルを廻すことで現在の学部運営を恒常的に実現できることが望まれる』という指摘に対して、質保証委員会が設置され、活動が行なわれた。3コースのコース長が質保証委員となり年5回質保証委員会を行なったこと、執行部作成の自己点検評価用紙の内容と実践された活動を審議し教授会で指摘したことはともに評価できる。今後は、より具体的な質保証活動を期待したい。

III 自己点検・評価

1 内部質保証

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

①質保証委員会は適切に活動していますか。

はい いいえ

【2016年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】 ※箇条書きで記入。

- ・構成：各コースのコース長がこの任を担う。
- ・開催日と議題：本学部は少人数であるため、自己点検に関する事項を以下の通り全教員で検討した。
4/12（質保証委員会組織と役割について）、5/17（2016年度自己点検評価活動について予定）、5/31（3つのポリシー見直し）、7/12（2017年シラバスについて）、9/20（アドミッションポリシーについて）、3/14（2016年度自己点検評価活動について結果）

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・シラバスに記載された全科目のチェック作業を実施し、問題点、改善点を教授会で報告した。	S <input checked="" type="checkbox"/> B

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学部では、3コースのコース長が質保証委員となり、年5回質保証委員会を行なったこと、執行部作成の自己点検評価用紙の内容と実施された活動を審議し教授会で指摘したことは評価できる。今後は、より具体的な質保証活動

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

を期待したい。

2 教育課程・学習成果

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【学位授与方針】

スポーツ健康学を教育研究する事により、我が国のスポーツ振興と健康づくりに貢献できる人材を養成する。また、知識の集積に留まらず実務能力と研究能力を身につけ、卒業後は社会で十分活躍できる能力を涵養する事を目的としているため下記の能力を備えた学生に学位を授与します。

1. 豊かな社会性と人間性を支える広い教養を身に着けている。
2. スポーツ健康学の学問内容及び方法を理解している。

[知識・理解力]

3. 自ら設定した課題について、スポーツ社会科学・健康科学・スポーツ科学のいずれかの学問領域の研究方法を用いて、考察することができる。

[思考力・判断力・表現力]

4. スポーツ健康学の知を実践の力へと高めることができる。
5. 社会における自分の役割を自覚することができる。

[関心・意欲]

6. スポーツ健康学の知を持って地域社会のニーズに応えることができる。
7. 生きた文化や生きた社会を創る事に寄与できる。

[態度]

8. 他者の声に耳を傾け、自分の考えを口頭表現や文章表現によつて的確に伝えることができる。

[技能]

①学部(学科)として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件(卒業要件)を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい いいえ

2.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【教育課程の編成・実施方針】

1. 学部の掲げるディプロマ・ポリシーを達成するために、5つの科目群を配置し、系統的履修を促します。

[知識・理解力]

- ・人文社会系の科目から、自然科学系の科目まで、学部の学生として基礎となる幅広い科目を学びます。又、学習に対する姿勢、生涯にわたり学ぶことの必要性を理解し実践できるようにする。[視野形成科目群]
- ・専門的な科目を履修するためのスポーツ科学や健康科学の基礎となる科目から、スポーツの構成要素とし欠かせないスポーツ社会学まで幅広く科目を配し、健康と社会との関わりを習得できるようにする。[専門基礎科目群]
- ・コース科目を受講する前提として、専門科目の3つのコース科目の土台となる科目を配し、1つのコースに偏ることなく学際的な領域を学ぶことができる。[専門基幹科目群]
- ・ヘルスデザインコース(健康の増進)・スポーツビジネスコース(生涯スポーツ社会の実現)・スポーツコーチングコース(スポーツの指導)それぞれの領域を学ぶことができる。[専門科目群]
- ・3つのコース科目で習得した理論的な知識を集大成した上で、討論や発表を通して、これまで習得した理論を自分の物として具体的な諸問題への対処方法、課題解決方法を身に着ける。[専門演習]

2. 学生の学習能力の発達状況に合わせた段階的な科目配置を行っています。

[思考力・判断力・表現力]

- ・初年時においては視野形成科目において学習に必要なスキルを学びます。
 - ・スポーツ健康学の先端的な教育研究を理解するために必要な英語力を養成します。
 - ・コース共通の科目群を設定し、所属する全学生が「スポーツ健康学」の基礎となる体育学、健康科学、スポーツビジネスの基礎知識を涵養する事を目指します。
3. 各学生が自ら希望・選択する分野でより専門的履修が行えるコース・プログラム別の教育課程を整備し、すべての学生が3コース・プログラムを選択する枠組みを設定します。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

- ・ヘルスデザインコース(健康の増進)
- ・スポーツビジネスコース(生涯スポーツの実現)
- ・スポーツコーチングコース(スポーツ指導)

[関心・意欲]

4. スポーツ健康教育の知見は、豊富な実技・実習を通じた体験学習によって会得します。

[技能]

- ・設定された目標課題にむけ、幅広い視点から、考察を加え、学内外の施設を利用した実技・実習科目を豊富に設定し、多角的に準備された場によって鍛え上げ、社会に貢献できる人材を育成します。

5. 大学教育における小集団教育の重要性を鑑み、1年次から4年次まで演習を開設し、勉学への動機付けや専門性の徹底を図るとともに、仲間意識や教員との人格的接触機会の増大に役立てます。

[態度]

①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。

はい いいえ

②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。

はい いいえ

【根拠資料】※冊子名称やホームページURL等。

- ・ http://www.hosei.ac.jp/kyoiku_kenkyu/gakubu/sports.html
- ・ http://www.hosei.ac.jp/sports/NEWS/zaigaku/170401_01.html
- ・ 2016年度スポーツ健康学部履修の手引き
- ・ スポーツ健康学部専門演習募集要項 2016

③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。

S A B

(～400字程度まで) ※検証を行う組織(教授会や各種委員会等)や検証の時期等、検証プロセスを記入。

- ・ 教授会

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ 特になし

2.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S A B

(～400字程度まで) ※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

2013度より運用を開始した新カリキュラムが、目標通り学生の能力育成の観点から適切に教育内容が提供できているかを、順次検証している。

【根拠資料】※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等

- ・ スポーツ健康学部カリキュラム表

②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。

S A B

(～600字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修(個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ(必修・選択等)含む)への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。

当学部は2年次において「ヘルスデザインコース」「スポーツビジネスコース」「スポーツコーチングコース」の3コースから将来を見据えたコースを選択し、より専門性の高い授業を受講できるカリキュラム編成としている。更に専任教員のゼミナールに参加することで高い専門分野の学問を学ぶことができる体制下にある。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ スポーツ健康学部カリキュラム表(新・旧)
- ・ 2017年度専門演習募集要項

③幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。

S A B

(～400字程度まで) ※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>スポーツを広く文化としてとらえることで教養を深め人間性を涵養すべく、「視野形成科目」を全コースの必修選択科目と位置づけ、人材育成に取り組んでいる。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・法政大学スポーツ健康学部 設置の趣旨等を記載した書類</p>	
④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p>初年次教育としては、1 年次の少人数クラスによる「スポーツ健康学入門」として、「読み・書き・コミュニケーション能力の向上」につながる授業を行っている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2017 年度スポーツ健康学部シラバス</p>	
⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>米国の学習・研究環境・スポーツ文化に接することにより、国内とは別の視点で文化としてのスポーツを学際的に学習・研究するため、ボイシー州立大学での研修プログラムを提供している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし</p>	
⑥学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>キャリア教育としては、教員 がスポーツ・健康関連企業に関する情報提供や、「専門演習」「実習科目」を通してのインターンシップの奨励、サポートを行っている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし</p>	
2.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。 ・学生への履修指導は、学年ごとに「新年度ガイダンス」「春学期終了ガイダンス」「秋学期終了ガイダンス」を開催している。各種資格については個別の「資格ガイダンス」を行い、必要に応じて学年 を分けるなどきめ細かな指導に取り組んでいる。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2017 年度スポーツ健康学部履修の手引き</p>	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>通常授業・演習を問わず、授業内容が当学部の学生に共通する進路に係るような場合は、学習意欲や進路を考える際の一助となるよう、公開授業にするなどの工夫をしている。また「専門演習」においてはインターンシップや現場実習も取り入れ、社会と密接に関わっているスポーツ・健康分野ならではの学習研究と、将来の目標設定を実践の中で並行しながら考えられるよう、多様な場や機会を設けている。また各教員のオフィスアワーを明確にしている。それ以外の時間も、学生の研究室への訪問が容易になっており、履修相談・進路相談に随時、適切な対応を行っている。欠席の多い学生や、提出物に不備が多い学生には連絡・面接等を行い、学生の状況を常に把握するよう努めている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし</p>	
③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>学生の学習時間（予習・復習）の確保については、シラバスの内容に沿って適宜、促している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2017 年度シラバス</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

④1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【履修登録単位数の上限設定】 ※1年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位の上限を記入。 年間42単位（半期22単位までを目安とする）の上限を設定している。</p> <p>【上限を超えて履修登録する場合の例外措置】 ※履修登録単位数の上限を超えて履修できる場合、制度の概要を記入。 学生が再履修科目を選択すると年間49単位までと設定している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2017年度履修の手引き</p>	
⑤教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に実習科目においては、学生自身が考え、実践する中で知識や情報を得たり、学生同士で相互評価をするなどの活動を通して学習を深められるよう取り組んでいる。 ・授業前に簡単な質問をすることで、これから学ぶ内容の現在の理解度を自覚させている。 ・演習科目については、自ら課題を選択し、調査し、報告することを課題とし、学生主体のアクティブな学習形態としている。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし</p>	
⑥それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度まで) ※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門演習では1学年あたり10名前後の人数で編成されることを原則としている。 ・機材を必要とする実習あるいは実験科目では事前に人選し履修人数を調整している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2017年度シラバス、2017年度履修の手引き</p>	
⑦シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスは、教員の専門分野において学生のレベルに沿った内容とするよう作成している。 ・シラバスが作成基準を満たしているかのチェックを執行部により行い、教授会で報告をしている。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2016年度教授会議事録</p>	
⑧授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ、健康のジャンルは現代社会に密接に関連していることから、実際の授業ではタイムリーなテーマを取り上げることもあるが、最終的には授業全体として目的に合致しているか否かを判断し、授業改善アンケート等を参考に、より適切な内容となるよう各教員が取り組んでいる。教職をはじめとする各種資格取得のために必要な科目については、資格ごとに必要な内容が授業に盛り込まれているか否かの確認を行っている。 ・また教員相互授業参観を行い、授業内容の確認を実施している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし</p>	
2.5 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価と単位認定については、各教員がシラバスの成績判定記載に基づいて適切に行っている。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2017年度シラバス</p>	
②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>他大学あるいは他学部からの転入生における既修得単位の認定についての内基準は明確に定めてはいないが、シラバスの内容を本学部の授業内容と照合し、詳細に検討して適切に実施している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
③厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>成績評価を筆記試験だけでなく、通常授業時の小テストやアンケートなど、常に学生からのリアクションを得ることにより、理解度とともに物事に取り組む姿勢なども総合的に評価している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度シラバス 	
④学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法、データの種類等】 ※箇条書きで記入。</p> <p>・1年生から3年生は取得を希望する資格の調査を行っている。4年生については、進路希望・内定獲得先・最終的な進路を4月のガイダンス、夏休みに入る前、冬休みに入る前の3回調査を行い、集計結果を教授会において共有している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年のガイダンス印刷物 	
2.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類等】 ※箇条書きで記入。</p> <p>・成績分布、科目毎の不合格者、進級状況については集計しその情報資料を教授会において共有している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教授会配付資料 	
②学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握・評価していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等）。</p> <p>年度の初めに、前学年で開講された必修科目の内容について「専門知識習熟度テスト」を実施している。教育成果の定期的な検証を行い、学習成果については、特に学生の課外活動等における自主的な取組への参加、また卒業研究の発表会によって行っている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
③学習成果を可視化していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【学習成果可視化の取り組み】 ※取り組みを箇条書きで記入（取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年別の成績一覧表を作成し、教授会で配布している。 ・2.6②で回答したように必修科目について「専門知識習熟度テスト」を実施している。 ・また専門演習Ⅲでは、優秀発表者を選出して表彰している。 <p>【2016年度新規取り組み事項、前年度から変更や改善された事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の学年別の成績経過を一覧表にして、成績の変遷を視覚化している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016年度教授会資料 	
2.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の学年別の成績経過を一覧表にして、成績の変遷を視覚化し検証している。 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・特に問題と思われる学生に対しては個別指導を実施している。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
【利用方法】 ※箇条書きで記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・学生がウェブ上で回答した授業改善アンケートの結果は執行部が確認し、必要に応じて対応するようにしている。 ・自由記載された学生の意見などの情報は、教授会で共有している。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ健康学は従来の教員主導型の授業形態が多くみられている。 ・新しい授業形態（アクティブラーニングやオンデマンド授業）に積極的に取り組んでいるとは言い難い。 ・特にオンデマンド授業は、冬季競技や遠征の多いトップアスリートたちにとって有用であり今後も取り組むべく検討を進める。 ・教育上の目的を達成するために、今後も引き続き学習面での学生への対応を積極的に行っていく。

【この基準の大学評価】

①方針の設定に関すること (2.1～2.2)

<p>スポーツ健康学部では、8項目の明快な学位授与方針が設置されている。また、学位授与方針と連動性をもった教育課程の編成・実施方針が設定されている。</p> <p>自己点検・評価シートでは教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針がホームページに公開されている。</p> <p>学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証については、教務データ等を基に教授会で適切に行われている。</p>

②教育課程・教育内容に関すること (2.2)

<p>スポーツ健康学部における、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されているかについては、新カリキュラムについて順次検証を行っている。</p> <p>2年次における3コースからの選択やゼミナールへの参加により、カリキュラムの順次性・体系性が確保されている。教養を深め人間性を涵養するために「視野形成科目」を全コースの必修選択科目としている。</p> <p>初年次教育・高大接続への配慮については、基礎ゼミとして1年次の少人数クラスによる「スポーツ健康学入門」が設置され、英語の習熟度別のクラス編成も行われている。</p> <p>学生の国際性を涵養するため、ボイシー州立大学の研修プログラムを実施している。また、キャリア教育についても、「専門演習」「実習科目」を通してのインターンシップの奨励等、適切に提供されている。</p>

③教育方法に関すること (2.4)

<p>スポーツ健康学部の学生への履修指導は、学年ごとに「新年度ガイダンス」「春学期終了ガイダンス」「秋学期終了ガイダンス」や個別の「資格ガイダンス」などを通じて適切に行われている。学習指導も、全体および個別に適切に行われている。</p> <p>学生の学習時間を確保するための方策については、シラバスで周知するとともに、授業支援システムや予習シート、小テストなどで行われている。</p> <p>年間の履修登録単位数は年間42単位（再履修科目を含め49単位）を上限としている。</p>
--

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

教育上の目的を達成するために効果的な授業形態の導入については、「実習科目」と「演習科目」を重視している。
 授業形態に即した1授業あたりの学生数の配慮については、専門演習では10名前後を原則とし、実験科目では、事前に選抜し履修人数を調整している。
 シラバスが適切に作成されているかの検証は、シラバスを執行部がチェックしている。また、授業がシラバスに沿って実施されているかの検証は、授業アンケートと授業参観により行われている。

④学習成果・教育改善に関すること (2.5～2.7)

スポーツ健康学部における成績評価と単位認定の適切性の確認については、各担当教員が全学 GPA と成績評価結果を照らし合わせて確認している。
 他大学等における既修得単位の認定については、現在は他大学からの編入は受け入れていないため、行われていない。
 厳格な成績評価を行うための方策については、組織的な取り組みが望まれる。
 学生の就職・進学状況の把握方法は適切である。
 成績分布や進級などの状況は教授会で共有されている。また、前年度の専門知識習熟度テストにより学生の学習成果の検証が行われていることは評価できる。また「課外活動における自主的な取り組みへの参加」および「卒業研究発表会」でも把握・評価が行われている。
 学習成果の可視化については、必修科目での「専門知識習熟度テスト」の実施や、専門演習Ⅲでの優秀発表者を選出して表彰する取り組みについては、学生の学習成果の可視化方法として評価できる。
 学習成果の検証と、その結果に基づいた改善への取り組みについては、学生の学年別の成績経過を一覧表にして、成績の変遷を視覚化し検証し、問題と思われる学生に対しては個別指導を実施している。一方で、この過程で教育課程・内容の改善につなげるため、組織的な取り組みが望まれる。
 学生による授業改善アンケートの結果は執行部や教授会で確認・共有され活用されている。

3 学生の受け入れ

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【学生の受け入れ方針】

スポーツ健康学部では、スポーツと健康に幅広い関心を持ち学習(学修)・研究を通じて社会に積極的にかかわる意欲を持つ、下記の能力を備えた受験生を、各種選抜試験を通じて入学させます。

1. 入学後の就学に必要な基礎学力としての知識や実技能力を有している。
[知識・理解・実技能力]
 - ・高等学校で履修する国語・英語・数学・地理歴史・公民などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。
 - ・スポーツ・体育などに関して、修業に必要な実技能力を有している。
2. 物事を多面的かつ論理的に考察することができる。
[思考力・判断力]
3. 自分の考えを的確に判断し、伝えることができる。
[技能]
4. スポーツ、人間、文化にかかわる諸問題に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲がある。
[関心・意欲]
5. 積極的に他者とかわり、対話を通じて相互理解に努めようとする態度を有している。
[態度]

①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
--	--

3.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
---------------------------	--

(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。
 本学部の入学定員充足率は5年間平均で1.00であり非常に適切な収容であると捉えている。今後も求める学生像・修得

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

しておくべき知識等の内容・水準について学部パンフレットにより周知を計りながら継続していきたい。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

定員充足率（2012～2016年度）

（各年度5月1日現在）

種別\年度	2012	2013	2014	2015	2016	5年平均
入学定員	150名	165名	165名	165名	165名	
入学者数	121名	167名	162名	171名	191名	
入学定員充足率	0.81	1.01	0.98	1.04	1.16	1.00
収容定員	600名	615名	630名	645名	660名	
在籍学生数	690名	704名	666名	642名	698名	
収容定員充足率	1.15	1.14	1.06	1.00	1.06	1.09

※1 定員充足率における大学基準協会提言指針

【対象】

- ①学部・学科における過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均
- ②学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率

【定員超過の場合】※医学・歯学分野は省略

提言	努力課題	改善勧告
実験・実習を伴う分野 (心理学、社会福祉に関する分野を含む)	1.20以上	1.25以上
上記以外の分野	1.25以上	1.30以上

【定員未充足の場合】

提言	努力課題	改善勧告
すべての分野共通	0.9未満	0.8未満

※2 定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準

年度	～2015	2016	2017	2018～
入学定員超過率	1.20以上	1.17以上	1.14以上	1.10以上
収容定員超過率	1.40以上	1.40以上	1.40以上	1.40以上

3.3 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S A B

(～400字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。
入試経路別に成績を集計し、この結果を教授会で共有している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2016年度教授会資料

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学部では、求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針が設定されている。また、入学定員充足率は5年間平均で1.00と非常に適切である。

学生募集および入学者選抜の結果についての検証と改善・向上に向けた取り組みについては、入試経路別に成績を集計し、その結果を教授会で共有しているが、これに加えて改善・向上に向けた取り組みを質保証委員会等でチェック検証を行なうことが望まれる。

4 教員・教員組織

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

【求める教員像および教員組織の編制方針】(2011年度自己点検・評価報告書より)

設置審査の過程で十分に検討されており、完成年度までは以下の教員組織で運営する。
 本学部には、スポーツ科学の研究者をはじめ、わが国を代表するトップアスリートとしての経験を持つ指導者や総合型地域スポーツクラブの推進者、医師、理学療法士、鍼灸師、アスレティックトレーナー等の資格を有する健康科学者など多彩な人材、18名が専任教員として就任している。また、専任教員18名のうち、8名については学内からの移籍者であり、その多くは平成17年度より本学がスポーツ文化の担い手を育成することを目的に開設した、学部横断プログラム「スポーツ・サイエンス・インスティテュート(S S I)」での教育を実践してきた経験者である。なお、専任教員には大学において教育研究経験を実践してきた者、社会的な経験を有する者の他にも、博士の学位を取得している者が4名と医師免許を有する者が2名おり、学部として研究機能を果たすための業績を有する教員が確保されている。期待される教員像として、スポーツ、医科学の知見に秀で、かつ豊富な実践指導経験あり、資格取得に関しても適切な助言を与えることが出来、加えて教学に関わる運営全般にわたり積極果敢に取り組む意欲ある人材を求めている。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。 はい いいえ

【根拠資料】 ※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。
 ・スポーツ健康学部専任教員の任用に関する基準、スポーツ健康学部教授・准教授の任用(昇格)に関する基準

②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。 はい いいえ

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】 ※箇条書きで記入。
 ・学部執行部は、学部長、教授会主任、教授会副主任の3名で構成している。
 ・学部内委員会として教務委員会、資料室委員会を含む8つの委員会を設置している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。
 ・スポーツ健康学部教授会 各種委員一覧

4.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

①学部(学科)のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。 はい いいえ

(~400字程度まで) ※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性、国際性、男女比等の観点から教員組織の概要を記入。

学部設置認可に至る過程で教員それぞれが担当科目について審査を受け、「ヘルスデザインコース」「スポーツビジネスコース」「スポーツコーチングコース」の3コースにおいて、それぞれに相応しい専門分野を持つ教員が均等に配置され教員組織が編成されている。2014年度大学評価報告書でも上記評価を受けている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。
 ・各コース別の教員組織構成表

②教員組織の編制において大学院教育との連携を考慮していますか。 はい いいえ

(~400字程度まで) ※教員組織の編制において大学院教育との連携にあたりどのようなことが考慮されているか概要を記入。

2016年度に開設した大学院(スポーツ健康学研究科)は学部で教育したスポーツ健康学を深化するため、学部の教員17名中12名が関わっている。今後、学部教育と大学院教員がさらなる連携を進めるべく教員組織を改編していく。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・学部および大学院の教員組織構成表

2016年度専任教員数一覧 (2016年5月1日現在)

学部・学科	教授	准教授	講師	助教	合計	設置基準上 必要専任教 員数	うち教授数
スポーツ健康	13	1	3	1	18	14	7

専任教員1人あたりの学生数 (2016年5月1日現在) : 38.8人

③特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。 はい いいえ

【特記事項】(～200字程度まで) ※ない場合は「特になし」と記入。

教員の採用・昇格の基準等については、独自に内規を策定し、教員の資格要件をふまえて、求める能力、資質等を明らかにしている。ただし女性教員比率の改善が課題である。

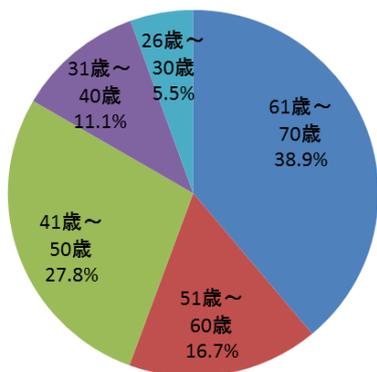
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

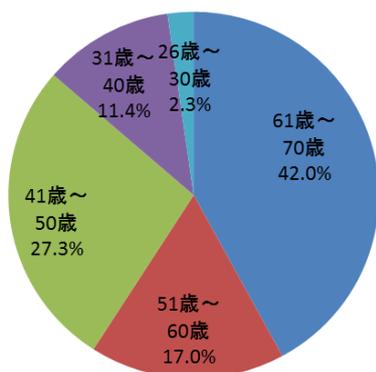
年齢構成一覧 (2016年5月1日現在)

年度\年齢	26～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳
2016	1人 5.5%	2人 11.1%	5人 27.8%	3人 16.7%	7人 38.9%

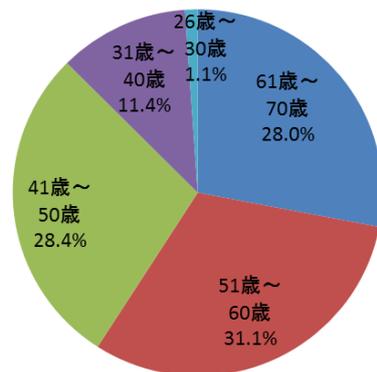
年齢構成比
(2016年度スポーツ健康学部)



年齢構成比
(スポーツ健康学部過去5年平均)



年齢構成比
(2016年度全学部平均)



4.3 教員の募集・採用・昇任等を適切に行っているか。

①各種規程は整備されていますか。 はい いいえ

【根拠資料】※教員の募集・任免・昇格に関する規程・内規等の名称を箇条書きで記入。

・スポーツ健康学部専任教員の任用に関する基準、スポーツ健康学部教授・准教授の任用(昇格)に関する基準

②規程の運用は適切に行われていますか。 はい いいえ

【募集・任免・昇格のプロセス】※箇条書きで記入。「上記根拠資料の通り」と記載し、内規等(非公開)を添付することでも可。

- ・専門分野や年齢構成等、偏った教員構成にならないよう、委員会設置→候補者選定→業績審査→教授会決定という一定の過程を設けている。
- ・2017年度の体制に備えて採用1名、昇格1名の人事を決定した。

4.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部(学科)内のFD活動は適切に行なわれていますか。 S A B

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

- ・大学のFD委員会の意向を受け、本学部では特にFDの為の組織は設けずに、執行部が中心となり進めている。

【2016年度のFD活動の実績(開催日、場所、テーマ、内容(概要)、参加人数等)】※箇条書きで記入。

- ・昨年度と異なり、特に期間を設けずに随時授業相互参観を可能とし、教員への参観を促した。
- ・学生による授業評価を踏まえた「授業運営に関する意見交換会」の機会を設けた。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

・授業改善アンケート結果を教授会にて公表し、教員に授業改善の意識を持たせた。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

スポーツ健康学部では、採用・昇格において、教員に求める能力・資質等を明らかにした教員の採用・昇格の基準が定められている。

学部執行部、および学部内委員会として教務委員会、資料室委員会を含む8つの委員会が設置されており、学部内での役割は明示され、責任の所在も明確にされている。

カリキュラムに対応した3つのコースごとの教員編制が明示されており、カリキュラムにふさわしい教員組織が備えられていると判断できる。

学部教員17名中12名の教員が大学院の教育に携わっており、さらなる連携が期待される。

教員の年齢構成は特定の範囲に偏ることなく配慮されている。また、教員の募集・任免・昇格に関する各種規程が整備され、適切に運用されている。

FDに関する特定の責任委員会はないものの、学生による授業評価を踏まえ、各ゼミ長が参加する「授業運営に関する意見交換会」が年2回開催されるなど、複数の取り組みがなされていることは評価できる。

5 学生支援

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部(学科)単位で把握していますか。 はい いいえ

【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】※箇条書きで記入。

・退学・留年については、教授会において正確に把握し情報を共有している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2016度 在籍異動および在籍者報告

②学部(学科)として学生の修学支援をどのように行っていますか。 S A B

(～400字程度まで)※修学支援の取り組みの概要を記入(取り組み例:クラス担任、オフィスアワー、学生の能力に応じた補習・補充教育、アカデミックアドバイザーなど)。

・1年生は20名前後のクラス分けを行いチューターにより修学支援を実施している。

・2～4年生は所属しているゼミの教員が修学支援を担当している。

・専任教員はオフィスアワーを設け、漸次学生の質問などに対応している。

・資格取得のための試験対策補修授業を実施した。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

③成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。 S A B

【成績不振学生への対応体制および対応内容】※箇条書きで記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・成績が不振な学生については、科目担当教員から事務を通して執行部に報告され、個別に対応している。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
④学部（学科）として外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。	S A B
（～400字程度まで）※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・現在まで学国人留学生が入学していないため対応していない。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

<ul style="list-style-type: none"> ・特になし

【この基準の大学評価】

<p>スポーツ健康学部における学生の卒業・留年・休退学の状況は教授会で把握されている。</p> <p>学生の修学支援の取り組みについては、2年生以上がゼミに所属し修学支援を行なうという、きめ細かい修学指導がなされていることは評価できる。</p> <p>成績不振者への対応は、教務データ等を基にゼミ担当教員を中心に個別に行われている。</p>
--

IV 2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況

評価基準		教育課程・教育内容
現状の課題・今後の対応等		<ul style="list-style-type: none"> ・2013年度から始まったカリキュラムが2016年度で完成することから、このカリキュラムを検証するとともに、さらに新しいカリキュラム改革に向けた話し合いを進める。 ・2016年度に行う上記のカリキュラム改革に向けた話し合いの中で、初年時教育の方策も検討する。 ・学生の国際性を涵養するための内容を現状の海外課外研修（ボイシー州立大学）+A8:C8に加えて新しい研修先を加えるための検討を開始する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・2016年度より2018年度からスタート予定のカリキュラム改革に向けた活動を開始した。教務委員会での会議を重ね、中間報告を教授会にて報告している。またそのなかで初年時教育の新しい方法を模索している。 ・海外課外研修の新しい実習先、とくにスポーツビジネスコースの学を深めることのできる実習先の検討については引き続き検討を進めていく。
	質保証委員会による点検・評価	<p>初年次教育については、昨年度、見直しを行った英語科目とともに、早急に手を付けるべき課題であった。これに一定の方向性を示すことができたことは評価できる。ここからさらに、教授会で得られた意見を参考に議論を重ね、確実に2018年度より新しいカリキュラムが実行できるようにしてほしい。</p>
評価基準		教育方法
現状の課題・今後の対応等		<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ健康学は従来の体育学同様、実習系授業が多く、学生と教員、双方向のやり取りによる授業形態は多くみられている。一方で新しい授業形態（アクティブラーニングやオンデマンド授業）に積極的に取り組んでいるとは言い難い。特にオンデマンド授業は本学部在籍している冬季競技や遠征の多いトップアスリートたちにとっては有用であるため、学部全体で取り組むべく検討を進める。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		・教育上の目的を達成するために、今後も引き続き学習面での学生への対応を積極的に行っていく。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	・スポーツ健康学は従来の体育学同様、実習系授業が多く、学生と教員、双方向のやり取りによる授業形態は多くみられている。一方で新しい授業形態（アクティブラーニングやオンデマンド授業）に積極的に取り組んでいるとは言い難い。特にオンデマンド授業は本学部に在籍している冬季競技や遠征の多いトップアスリートたちにとっては有用であるため、学部全体で取り組むべく検討を進める。 ・教育上の目的を達成するために、今後も引き続き学習面での学生への対応を積極的に行っていく。
	質保証委員会による点検・評価	オンデマンド授業は、スポーツ健康学部においてはぜひ、導入すべきであるが、まだ、具体的な方向性が示されていない。したがって、いつまでに、どの科目を、といった目標を立てる必要がある。
評価基準		成果
現状の課題・今後の対応等		・引き続き専門知識習熟度テストを活用し学生の学習成果の把握に努める。 ・専門知識習熟度テストは1・2年次の学習成果を把握するためのものであるため、3・4年次の学生成果を把握するための方策を学部および各コース別に検討を進める。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	2016年度は全ゼミ参加による卒業研究発表会を初めて実施することができた。優秀論文賞の審査をほぼ全専任教員で実施することで学習の成果を評価できた。専門科目習熟度テストとともに卒業研究発表会をさらに発展させることで、3・4年時の専門教育の学習の成果を評価できることが示された。
	質保証委員会による点検・評価	全ゼミ参加の卒業研究発表会が開催され、優秀賞の選抜ができたことは、高く評価できる。しかし、1ゼミにつき1演題の発表であったので、発表方法などを工夫して、もう少し多くの学生に発表の機会を与えることも検討してほしい。

【2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況の評価】

2013年度から始まったカリキュラムが2016年度に完成年度を迎えた。2018年度より新カリキュラムに移行することになるが、とりわけ課題となっている初年次教育の在り方について、一定の方向性は示せたようだが、確実に新カリキュラムで実行できるように一層の努力が望まれる。

また、専門科目の習熟度を測定する指標として、習熟度テストのみならず「卒業研究発表会をさらに発展させる」ことを目指されている。今後ともさらなる検討が望まれる。

【大学評価総評】

スポーツ健康学部は教育への学生の満足度が全学のトップクラスにある優良学部だが、その健全な状態を維持し拡大するためにも、『自己点検活動と質保証の制度化を実現させてPDCAサイクルを廻すことで現在の学部運営を恒常的に実現できることが望まれる』という指摘に対して、質保証委員会が設置され、活動が行なわれた。3コースのコース長が質保証委員となり年5回質保証委員会を行なったこと、執行部作成の自己点検評価用紙の内容と実践された活動を審議し教授会で指摘したことはともに評価できる。今後は、より具体的な質保証活動を期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。